

宍道湖・中海水産振興対策調査事業
有用水産動物生態調査（アサリ・サルボウ）

清川智之・重本欣史・中村幹雄

中海ではかつてサルボウを中心に有用貝類が大量に漁獲されていたが、近年では限られた水域でわずかに漁獲されているにすぎない。アサリ・サルボウ資源を増加させるためには、まず本水域における、これらの分布・生態を把握する必要がある。

材料および方法

1. 調査時期と場所

調査地点を図1に示す。平成9年10月30日と11月25日の2日間に、延べ37点で調査を実施した。調査水深は通常アサリの漁場として利用されている1～3mの間とした。

2. 調査方法

調査には、中海において通常用いられているジョレン（幅36cm）を用いた。このジョレンをおよそ1mずつ2回曳き、得られたアサリとサルボウの個体数、殻長、湿重量を調べた。サルボウについては、2回曳いても全く採取できないことがあったが、その際にはさらに3回以上、計5回以上曳いた。また、調査時には水深、底質の色、硫化物の有無を目視により併せて調査した。

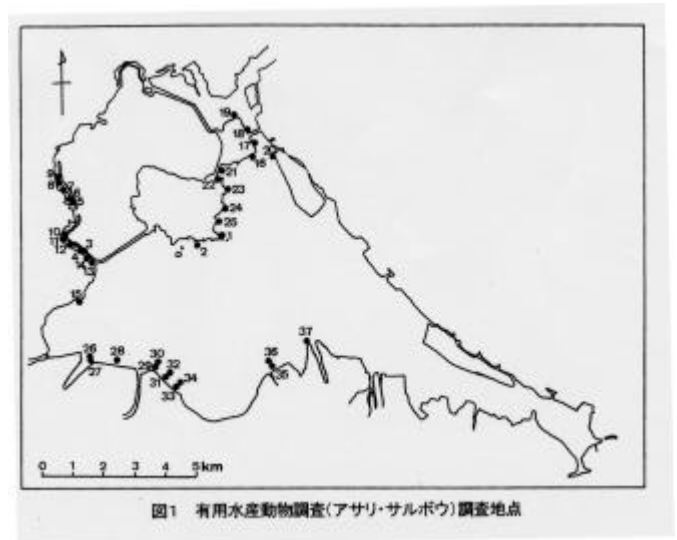


図1 有用水産動物調査（アサリ・サルボウ）調査地点

結果

表1に調査結果を示す。調査結果の概要については以下の通りである。

- ・水深：0.8～3.8mで、調査地点の大半が1～3mの間であった。
- ・底質：一部が泥質であった以外は砂質であり、大量の貝殻が存在する地点が多くみられた。また、ホトトギスがマットを形成している調査地点もみられた。底質の色は承水路や大根島東岸では黒色で、硫化物臭が認められる底質が多かった。南岸では白っぽく、硫化物臭が認められない底質が多かった。
- ・アサリ・サルボウ調査結果：アサリ分布調査結果を図2に、サルボウ分布調査結果を図3に示す。南岸では、サルボウはst.28（揖屋干拓地沖）において1個体採集されただけであった。アサリも揖屋干拓地沖で4個体採集されたが、それ以外は、0～1個体採集されただけであった。江島～大根島東岸ではst.3（江島北）で177個体、st.20（外江）で67個体採集されたが、その他の調査地点ではst.16, 17（江島東岸）で1～2個体採集されただけであった。特に昨年度の中海沿岸ベントス（貝類）調査¹⁾

でアサリの分布が認められていた大根島周辺で全く確認されなかったのが特徴的であった。サルボウについてはこの水域では全く確認されなかった。承水路ではアサリ、サルボウとも広く分布が確認された。特に、中海からの入り口に近いst.13,14,3,4では15~174個体のアサリが採集された。

- ・アサリ・サルボウの殻長組成：20個体以上アサリが採集された調査地点におけるアサリ殻長組成を図4に示す。st.5,19では比較的小型のアサリが目立ったものの、採集されたアサリの多くは20mm以上の個体であった。サルボウについては、全体で12個体しか得られなかった。採集された個体は殻長35~45mmが全体の70%を占めた。

表1 アサリ・サルボウ分布調査結果

st.	調査月日	水深(m)	底質の状況	底質の色	硫化物臭の有無	アサリ個体数*1	サルボウ個体数*1	の有無*2
1	10/30	1.2	貝殻主体	灰黒色	少しあり	0	0	なし
2	10/30	1.9	貝殻主体	黒色	あり	0	0	なし
3	10/30	1.2	貝殻主体	灰色	少しあり	174	0	なし
4	10/30	2.6	貝殻主体	黒色	少しあり	57	0	あり
5	10/30	1.6	貝殻とマット*3	灰色	少しあり	21	0	なし
6	10/30	2.9	マット*3	黒色	少しあり	4	0	あり
7	10/30	3.2	マット*3	茶色	少しあり	5	2	あり
8	10/30	3.2	泥質	黒色	あり	0	0	なし
9	10/30	2.2	泥質	黒色	あり	0	0	なし
10	10/30	3.8	マット*3	黒茶色	少しあり	38	1	あり
11	10/30	1.7	マット*3	黒色	少しあり	9	1	あり
12	10/30	2.4	貝殻主体	黒色	あり	0	0	なし
13	10/30	2.6	貝殻主体	黒茶色	あり	26	1	あり
14	10/30	2.5	貝殻主体	黒茶色	あり	15	0	なし
15	10/30	2.0	貝殻主体	黒色	あり	0	0	なし
16	10/30	1.6	砂質	灰色	なし	1	0	なし
17	10/30	1.4	砂質	白色	なし	2	0	なし
18	10/30	0.8	砂質	白色	なし	0	0	なし
19	10/30	2.0	砂質	白色	なし	177	0	なし
20	10/30	2.3	砂質	白色	なし	67	0	なし
21	10/30	2.0	貝殻主体	黒色	少しあり	0	0	なし
22	10/30	1.8	貝殻主体	黒色	少しあり	0	0	なし
23	10/30	1.6	貝殻主体	黒色	少しあり	0	0	なし
24	10/30	2.4	貝殻主体	黒色	少しあり	0	0	なし
25	10/30	2.4	貝殻主体	黒色	少しあり	0	0	なし
26	11/25	2.6	泥質	黒色	少しあり	1	0	なし
27	11/25	1.8	砂質	灰色	なし	0	0	なし
28	11/25	3.1	砂質	茶色	なし	4	0	あり
29	11/25	1.0	砂質および岩	茶色	なし	0	0	なし
30	11/25	2.4	砂質	黒色	少しあり	1	0	なし
31	11/25	1.0	砂質	灰色	なし	0	0	なし
32	11/25	2.0	岩	灰色	なし	1	0	なし
33	11/25	1.0	砂質	灰色	なし	0	0	なし
34	11/25	2.0	砂質	灰色	なし	0	0	なし
35	11/25	1.4	砂質	茶色	なし	1	0	なし
36	11/25	2.0	砂質	茶色	なし	1	0	なし
37	11/25	1.5	砂質	茶色	なし	0	0	なし

*1: アサリ・サルボウの個体数はジョレン1m奥き×2回で得られた個体数を示す。

*2: サルボウの有無はジョレンを5回以上奥き、サルボウが採集されたかどうかを示す。

*3: マットとはホトトギスがマット状に分布していたことを示す。

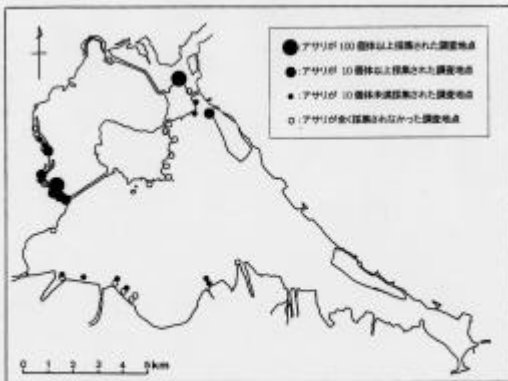


図2 アサリ分布調査結果

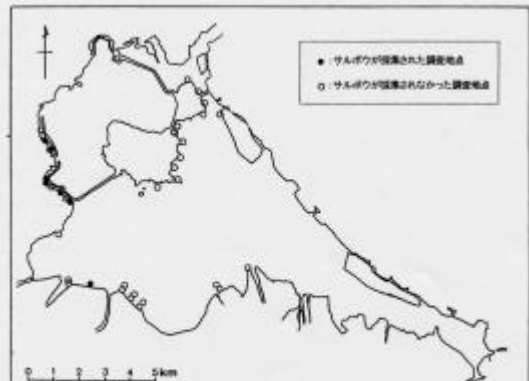


図3 サルボウ分布調査結果

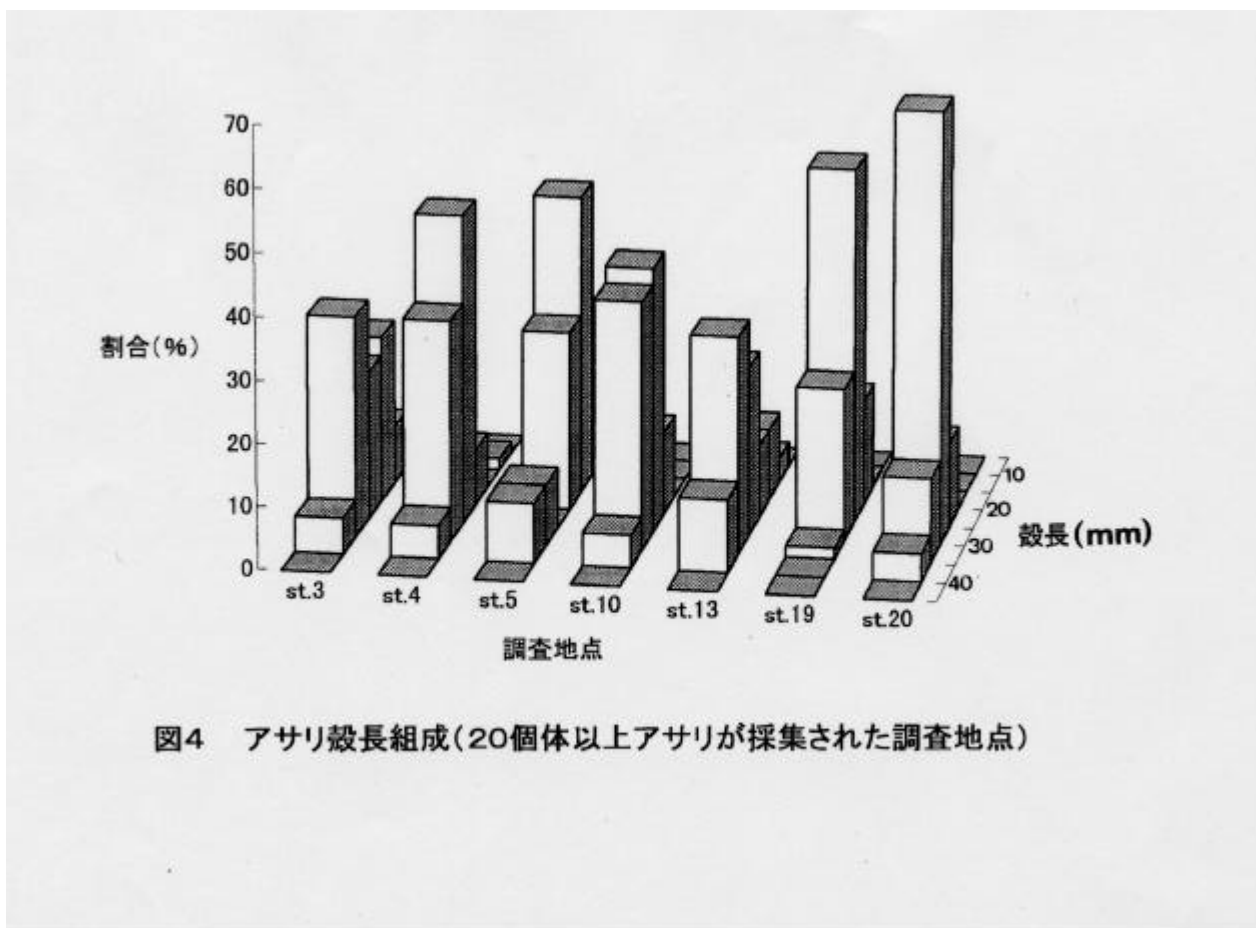


図4 アサリ殻長組成(20個体以上アサリが採集された調査地点)

考 察

昨年度実施した中海沿岸ベントス(貝類)調査¹⁾では、大根島南岸など中海全域でアサリの存在が確認されたが、今年度は昨年度の調査で多く採集された場所の近隣であってもアサリ、サルボウが採集されなかった調査地点が多く認められた。採集にジョレンを使用したことから、サーバーネットや採泥器を用いた昨年度の調査とは異なり、ジョレンの目から抜け落ちてしまうような小型貝が採集されないことも影響していると思われる。しかし、採集面積は昨年の調査よりも大きくなっており(今年度:0.72 m², 昨年度:0.0625~0.125 m²)、さらに昨年度の調査で得られたアサリの殻長組成をみると、小型の稚貝だけでなく、殻長15mm以上の大型個体も中海全域に広く分布していることを示している。そのため、今年度の調査でアサリ、サルボウが採集された地点がごく一部に限られたことは、今年度の状況と昨年度の状況が大きく異なることを示している。中海は塩分、DO、水温などあらゆる点において変動幅の大きい汽水湖であり、何らかの影響で生息していたアサリ、サルボウが死滅してしまった可能性もあるが、今後も分布調査などアサリ、サルボウ等に関する調査を継続し、これらの有用水産動物の消長について調査することにより、中海に最も有効な水産振興策について検討するための基礎的知見を蒐集する必要がある。

参 考 文 献

1. 清川智之・向井哲也・山根恭道・内田 浩・中村幹雄(1998): 中海沿岸ベントス(貝類)調査, 島根県水産試験場事業報告(平成8年度), 223 - 229